

Newsletter

2008.12.1

立教大学全学共通
カリキュラム運営センター

そこも地球の真ん中

上田 信 全学共通カリキュラム運営センター部長（文学部教授）

この夏、深く考えさせられる事件が地球規模で、そして遠い地域で発生した。「1つの世界、1つの夢」を公式標語とする北京オリンピックでは、中国のメダル獲得が目立ちましたが、日本では日常的にあまり話題にならない国や地域の選手の活躍も印象に残った。その一方でアジアのちょうど反対側では、グルジア紛争が表面化していた。そしてアフガニスタンで長年にわたり村に根ざして農業支援に取り組んでいた日本の青年が殺害され、その現地葬儀には数千人の村人たちが参列を希望したと報道されている。グローバルな一体化という表層の下で、地域の矛盾が噴出した8月であったと言えよう。学生諸君は、否が応でもこのような世界に向かい合うことになる。

本学では現在、学士課程教育という観点から全学的な改革が検討されており、全カリもその動きと深く関わっている。その考え方の要点は、大学や教員の側から学生に何を身につけさせたいか、という視点ではなく、学生自身が学士課程を修了したときに「何ができるようになっているのか」という発想でカリキュラムを検討しよう、というところにある。それでは、いま学生が身につける「力」とは何なのか。

1980年代頃からグローバリゼーションという言葉をも、さまざまな場面で眼にするようになった。

グローブとは球体の表面といった意味ある。地球儀をかたどった透明なビーチボールを手にして教室に立ち「この球体の真ん中はどこか示してください」とボールを渡すと、大半の学生は「このボールの中心でしょう」と、ボールの中核を指さす。球体の表面は、実はどこでも「真ん中」になりうる。グローブの上では、誰もが私がいま立っている「ここがグローブの真ん中です」「世界の真ん中です」という資格を持っているのである。

現代を生きる力とは、地球という球体を遠く宇宙から俯瞰する力と、その球体の上に複数形の世界（worlds）が存在していて、自分の世界もそのなかの一つであり、さらに他にも存在する多様な世界が存在することを実感できる力ということになるのではないか。「(わたしが生きる)ここも真ん中」という意識とともに、「(あなたが生きる)そこも地球の真ん中」だと語れる力である。

全カリ言語教育は英語ともう一つの言語の修得を必修としている。英語が地球を俯瞰するための手段だとすると、初習言語は地域の多様性を知るための機会を提供していると言えよう。全カリの学習を終えた学生が、地球規模で考える発想力を持ち、地域に根ざして生きる行動力を持って社会に巣立って行ってほしい。

目次

そこも地球の真ん中	上田 信 (1)
名古屋大学訪問：『自校史教育』について	山田 裕二 (2)
日本福祉大学「ブレンデッド学習による学生中心の教育改革」の取り組みについて	佐藤 雅信 (3)
2008年度全学共通カリキュラム運営センター メンバー一覧	(4)

名古屋大学訪問：『自校史教育』について

全学共通カリキュラム運営センター
総合教育科目担当部会長（理学部講師）

山田 裕二

3月5日の午前、『自校史教育』について伺うために名古屋大学の大学文書資料室を訪問いたしました。メンバーは安松先生、全カリ事務局の中川課長と私（山田）の3人です。『自校史教育』とは耳慣れない言葉であると感じられる方も多いと思います。立教大学でも2001年より全カリの中で『立教大学の歴史』という授業を行っており、年平均200人ほどの学生が受講しています。もし私が学生のころに『大学の歴史を大学自らが学生に教える授業』があったとすれば、なんとなく胡散臭さを感じて敬遠していたことでしょうか。しかし、最近の学生にはそのような意識はほとんどない様子です。歴史を専門とする方が授業を担当することが多く、偏ることなく良いことも悪いことも公平に教えていることも理由ですが、それ以外にも大学それ自体の社会的位置づけ、学生の持つ近現代の歴史的知識と大学に対する印象、求めるもの、などが大きく変化してきていることも大きな理由であるように思います。18歳人口に占める大学入学者人口の割合は、1966年には(29万人) / (249万人) = 約12%であったものが1991年には(49万人) / (201万人) = 約24%、2006年には(60万人) / (133万人) = 約45%と大きく変化していることは既に知られている通りです。今後10年程は、18歳人口は120万人をやや下回るところで推移しますから、18歳人口のほぼ50%が大学に進学することになります。

大学文書資料室の堀田先生、山口先生から『自校史』の授業の内容やその実際についてお話を伺い、同時に名古屋市や名古屋大学そのものについても教えていただきました。名古屋大学は昭和14年に設立され、旧制帝大の中では唯一、県名や地方名ではなく都市名のついた大学であること。これは大正期には全国第3位の人口を持つようになっていた名古屋市に、地元の発展のための総合大学設立の強い要望があったこと。創立には愛知県内のいくつかの国立（官立）・県立の教育機関を統合したため、キャンパスが各所にあったこと。学生の7割が地元（愛知・三重・岐阜）の出身者であるため、お膝元の具体的な場所が話の中に多く現れることは、学生が講義内容に関心を高く持つ一因となっていること。大正期の設置の陳情当初から地元が求めていた農学部が実際に設置されたのは昭和26年であり、それまでの名大の発展の歴

史が、名古屋市・愛知県などの地域の発展と深く係わり合いを持っていることなど…。また、大学文書資料室から昨年までの8年間に12冊が既に発刊されている『名大史ブックレット』が、数年間で変わることがあり得ない『自校史』をマンネリに陥らないように授業展開させるための大きな原動力となっていること。ブックレットごとに視点を変えた捉え方の授業が展開できること。体育会や研究会などの正課外の活動の史料は長年にわたりOB会などで整理されていることが多く、大学の史料として貴重なものであることが多いことなど、授業を支える背景や大学文化のあり方についても興味深い説明をいただきました。

『自校史』の授業は歴史を教えつつ、所属する大学について知ることで「大学で学ぶ」という事柄を学生に（再）確認させ、その後の大学生活の動機付けを与える効果を持つことが明確となってきました。その多面的な有効性から今では多くの大学で展開される標準的な科目となってきています。専門教育をするという大学の趣旨からは、その基礎として20年、30年経っても変わることのない科目も多くあります。一方、急激に変化する入学生をその専門教育まで繋げる仕組みを大学が責任を持って用意しなくてはならなくなってきています。これは多くの教員が大学生であった時代にはなかった新しい状況であり、「自分が獲得してきたものを同じ過程で伝える」という保守的な性向を持ちやすい「教育・教員」にとってはかなり危機的な状況です。それに対応すべく文科省なども「学士課程教育の構築」、「Faculty Development」、「認証評価」などを施策の前面に出し、大学への風当たりは強くなってきています。個々の実践は教員一人一人の努力に大きく依存することは確かです。しかし、個々の教員の試みや活動を支える環境と組織を、正課外活動も含めた形で大学が提供していくようにしなければ、個々の活動が形として大学に定着することはないでしょう。

午後にはメディアセンターの佐藤さんとも合流し、マルチメディアを活用した学習環境の実践例について、知多半島の先端部にある日本福祉大学にお話を伺いに向かいました。天気は終日良かったものの、まだ冷たい強い風の吹く一日でした。

日本福祉大学「ブレンデッド学習による学生中心の教育改革」の取り組みについて

メディアセンター 佐藤 雅信

はじめに

2008年3月に視察した日本福祉大学は、特色GPや現代GP、21世紀COEプログラムなど数多くの文部科学省採択事業を進めている非常に先進的な大学である。今回視察した「ブレンデッド学習による学生中心の教育改革」というプログラムもそのひとつで、平成19年度の現代GPに採択されている。この報告は、中村 信次室長（役職は視察当時）を始めとする教育デザイン研究室の方々にヒアリングした内容を基にまとめたものである。

参考ホームページ：

<http://www.n-fukushi.ac.jp/gp/gendai4/index.htm>

e-Learning への全学的な取り組み

日本福祉大学では、平成19年度中に、科目を持つ165名の専任教員すべてが、担当するいずれか1科目について、第1講目をオンデマンド化（科目ガイダンスコンテンツ）した。今年度はさらに、専任教員の担当科目すべてでガイダンスコンテンツを製作予定とのことだった。これにより、学生は履修選択の前に科目の概要を確認することができ、履修前と後とでの科目に対するイメージのギャップを解消することが可能となった。同時に、これで学内の構成員すべてが e-Learning に関わるようになったようだ。

授業コンテンツの製作

日本福祉大学が製作しているコンテンツは、基本的に15分×3回を15週分の2単位科目として開発しており、これを完結型コンテンツと呼んでいる。またその中の一部分を開発したものをブレンド型コンテンツとし、対面の授業と組み合わせで活用している。完結型コンテンツには1人の教員がすべてを担当するケースと複数の教員が担当するオムニバス形式のケースとがある。一方ブレンド型コンテンツは、1つ1つの講義コンテンツをパーツ（部品）として位置づけ、それらを対面授業の科目ガイダンスとして活用したり、科目間連携等で再編成して活用したりしている。部品化することで撮り直しや再編集の作業も効率的に進められる。「学生が効率的に学習するためには、対面授業の撮りっ放しでは駄目で、収録後の後編集が不可欠である。」という中村室長のコメントが印象的であった。

また、開発した講義コンテンツの権利はすべて大学に帰属させ、一度作ったコンテンツは他の教員も再利用できるようにしている。ただし担当教員が、開発したコンテンツを自由に再利用できるように配慮しているとのことだった。

学内支援体制

教育デザイン研究室が中心となり、担当教員が

いかにメリットを感じられるかという視点で、e-Learning の敷居を下げるための取り組みを進めている。（中村室長）

教育デザイン研究室の所属教員3名は、e-Learning の教育面や手法について、学術的な品質を審議する役割を担う。事務職員1名は、各学部の教育企画担当者と調整し、科目開発を統括する。その他に業務課と兼務の知財管理担当者が1名いて、弁護士事務所との窓口となり、著作権問題を処理している。学習指導コーチ（メンター）4名はオンデマンド授業の掲示板を盛り上げ、質問に対しては24時間以内に回答するようにしている。すべての科目に対してメンター4名のいずれかが対応するとのことだった。

講義コンテンツの製作そのものは外部委託していて、その中でもインストラクショナルデザイナー4名は、コンテンツの e-Learning 教材としての教育的効果を上げるための取り組みを行っている。その下で作業するアシスタントデザイナーには学生スタッフを組織し、学生の目線でのコンテンツ作成にも取り組んでいる。

授業コンテンツの活用方法

日本福祉大では、今後もオンデマンドでできる部分はオンデマンドに置き換える予定で、すでに進めている取り組みも含め、様々な活用方法が検討されている。これらの中には本学でも実施すれば非常に効果的だと思われるものがいくつもある。

例えば対面授業を補完する活用方法がある。出張等で対面の授業ができない場合に、オンデマンド授業を活用することで、休講にせず授業を行うことも可能となる。この際にコンテンツを部品化し、それらの部品を組み合わせで構成することで、オンライン教材集として、授業でも効果的に活用することができる。これらを教員同士がレビューし合うことでFDとしての活動にもなるとのことであった。さらに日本福祉大では、こういったコンテンツを、学生が通学途中に i-pod などの携帯端末でも学習できるようにしたり、また一方では、400名のクラスを二分割し、2つの200名クラスでそれぞれ対面授業とオンデマンド授業を交互に実施することで、大規模講義の解消を図ったりすることも計画されていた。授業としての活用にとどまらず、受験生募集用コンテンツとして、大学の授業に対する具体的なイメージを喚起させると同時に、先進的な取り組みをPRすることもできる。

この夏池袋キャンパスにも、デジタル・メディア・スタジオが9号館内に誕生し、こういった活動を進める環境が整ってきた。後はいかにして学内の合意形成を図っていくかである。

2008年度 全学共通カリキュラム運営センター メンバー一覽

2008. 12. 1 現在

<運営委員会>

	氏名	所属	小委
部長	上田 信 ☆	文 史	
部会長	谷野 典之 ☆	異コ 異コ	言語
	山田 裕二 ☆	理 数	総合
学部選出	菊池 清明	文 文	
	小澤 康裕 ☆	経済 会計	
	加藤 中英 ☆	理 化学	
	桜井 厚	社会 社会	
	松田 宏一郎 ☆	法 政治	
	葛野 浩昭 ☆	観光 交流	
	佐藤 研 ☆	コ福 コ政	
	松本 茂	経営 国経	
	大石 幸二	現心 心理	
教育研究室 主任	川崎 晶子	異コ 異コ	言A
	新野 守広	異コ 異コ	言B
	竹原 創一 ☆	文 キ	人文
	原田 晃樹 ☆	コ福 コ政	社会
	原田 知広 ☆	理 物理	自然
	長島 忍	理 数	情報
佐野 信子	コ福 ス	ス人	
特別教務委員	松山 伸一 ☆	理 生命	
専門委員	佐竹 晶子	異コ 異コ	言語
	佐藤 邦彦	異コ 異コ	言語
	関 礼子 ☆	社会 現代	総合
	沼澤 秀雄 ☆	コ福 ス	総合

<言語構想小委員会>

谷野典之、川崎晶子、新野守弘、
小倉和子、細井尚子、石坂浩一、
池田伸子、佐竹晶子、佐藤邦彦

<総合構想小委員会>

山田裕二、竹原創一、原田晃樹、
原田知広、長島 忍、佐野信子、
松山伸一、関 礼子、沼澤秀雄

<言語教育科目担当部会>

部会長：谷野 典之

研究室名	氏名	所属	
英 語	主任 川崎 晶子	異コ 異コ	
	Caprio, Mark E.	異コ 異コ	
	Cousins, Steven E.	異コ 異コ	
	Cunningham, Paul A.	異コ 異コ	
	久米 昭元	異コ 異コ	
	小林 悦雄	異コ 異コ	
	佐竹 晶子	異コ 異コ	
	実松 克義 ☆	異コ 異コ	
	高山 一郎	異コ 異コ	
	山口 まり子 ☆	異コ 異コ	
	平賀 正子	異コ 異コ	
	ドイツ語	主任 新野 守広	異コ 異コ
		濱崎 桂子 ☆	異コ 異コ
竹原 創一		文 キ	
井出 万秀		文 文	
フランス語	主任 小倉 和子 ☆	異コ 異コ	
	Delmont-Hosaka, Marie	異コ 異コ	
スペイン語	主任 佐藤 邦彦 ☆	異コ 異コ	
	飯島 みどり	異コ 異コ	
中国語	主任 細井 尚子	異コ 異コ	
	谷野 典之	異コ 異コ	
	呉 悦	異コ 異コ	
諸言語	主任 笠原 清志	経営 経営	
	石坂 浩一	異コ 異コ	
日本語	主任 谷野 典之	異コ 異コ	
	池田 伸子	異コ 異コ	
	田中 望	異コ 異コ	
	高橋 輝暁 ☆	文 文	

* 言語部会長の兼務

<総合教育科目担当部会>

部会長：山田 裕二

研究室名	氏名	所属
人文学	主任 竹原 創一 ☆	文 キ
	三浦 雅弘 ☆	社 現代
	小野沢 あかね	文 史
	藤井 淑禎 ☆	文 文
	黒岩 三恵	異コ 異コ
社会科学	主任 原田 晃樹	コ福 コ政
	佐藤 公敏 ☆	経 経政
	阿部 珠理 ☆	社 現代
	伊沢 和平 ☆	法 法
	竹澤 伸哉 ☆	営 国営
	田代 泰久 ☆	観 観
自然科学	主任 原田 知広 ☆	理 物
	佐藤 信哉 ☆	理 数
	常盤 広明 ☆	理 化
	山田 康之 ☆	理 生命
情報科学	主任 長島 忍	理 数
	泉本 利章	理 物
	深津 行徳	文 史
	田島 夏与 ☆	経 経政
	秋野 晶二 ☆	営 営
スポーツ 健康科学	主任 佐野 信子	コ福 ス
	大生 定義	社会 社会
	安松 幹展	コ福 ス
	沼澤 秀雄	コ福 ス
	濁川 孝志	コ福 ス
	松尾 哲矢	コ福 ス
	杉浦 克己 ☆	コ福 ス
	加藤 晴康 ☆	コ福 ス
	大石 和男 ☆	コ福 ス
	香山 リカ ☆	現心 映像
芳賀 繁 ☆	現心 心理	

全カリニューズレター No.24

印刷 2008.11.30 発行 2008.12.1

発行人 上田 信

編集人 原田晃樹、川崎晶子、関 礼子

発行所 立教大学

全学共通カリキュラム運営センター

印刷 神谷印刷株式会社

☆ 2008年度新任